

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所番号	2092400064		
法人名	社会福祉法人 しなのさわやか福祉会		
事業所名	複合福祉施設プラムの里グループホーム		
所在地	長野県上伊那郡宮田村 4804番地1		
自己評価作成日	平成 23年 8月 23日	評価結果市町村受理日	

基本情報リンク先

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部	
所在地	長野県松本市巾上13-6	
訪問調査日	平成23年9月30日	

- ①まだ1年の経過の中で手探りのケアが続いていますが一人ひとりの今まで培ってきた生活の継続が出来るように心がけています。
- ②地域の馴染みの皆さんとの交流が出来るよう努めています。
- ③ゆったり感のある生活環境作りに努めています。
- ④庭園作り等、楽しみのある生活作りに努めています。

グループホームは、社会福祉法人しなのさわやか福祉会が2000年に開設した「複合福祉施設プラムの里」の中に併設し、開所して約1年半経過の中で外部評価である。地域密着型としての機能を持つ3施設(特別養護老人ホーム・グループホーム・有料老人ホーム等)と連携を図り、プラムの里の「地域づくり委員会」や「生活向上委員会」を活用して、プラムの里で目指す地域づくり、地域密着型事業の推進、ボランティア活動の推進等の事業計画を立て、住み慣れた地域で、地域の特性に応じた多様で柔軟なサービス提供が可能になるよう取組まれている。運営者は福祉への熱い想いを持ち、地域ニーズに応えホームを創設し、行政とともにこの地域における課題解決に向け協働関係を継続し、職員の意見や要望を聞きながら良好な運営に取組まれている。一人ひとりを支えるために、グループホームのユニットリーダーを中心に職員間で情報の周知を図り、地域との関わりやご家族との関係づくりについて話し合い、具体的に提案し努力されている。またグループホーム事業目標「ゆったりとした時間の中で、あなたの笑顔に、やさしい笑顔でやりそいます」に沿って日々の支援が実践され、母体施設内で行われる様々な研修に参加して、ケアサービスの質の確保と向上に努められている。入居者は明るく穏やかに過ごされており、ご家族の安心と安定やホームへの信頼が繋がっている。

ユニット名(たんぽぽ)

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に掲げ、確認している。	「プラムの里」全体の理念を活用しつつホーム独自の理念を作成し、玄関に掲示されるとともに職員採用時研修に理念について伝えられている。なお複合施設内の研修委員会の中で、年度活動目標として「理念の浸透」を掲げ職員全員に周知できるよう取組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるイベント等に積極的に参加している。 新田地区納涼祭、収穫祭、宮田村防災訓練、環境整備事業に参加している。	年度初めに地域の行事を周知して、入居者と一緒に参加されている。地域のボランティア（ハーモニカ等）や近隣の小学校（ボランティア部会）との交流を楽しまれている。なお村・区への活動参加（ごみゼロ活動・納涼祭・区の健康づくり活動へ職員派遣等）し交流の輪を持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サーポーターとして地域グループ活動へ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、活動報告など行い、意見やアドバイスをいただいている。	運営推進会議には入居者、ご家族、住民の代表者、知見を有する者、行政関係者等の参加を得て開催されている。入居者の活動報告や家族会設立と家族会の開催に向けた取り組みが行われている。その他ホームへの質問、意見、要望を受け行政や参加者よりのコメントが得られる等地域に開かれたサービスとしての質の確保が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と連携し、情報交換・共有に努めている。	年4～5回地域の居宅サービス部会に参加して、入居者の状況について報告し情報提供が行われている。又行政の要望を受け入居者の安全確保重視を図るために良好な運営とケアサービスの質の向上に努力されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミニカンファレンスなどで、身体拘束をしないケアができるよう努めている。玄関扉にはベルを付け、開閉に気付けるようにしている。	定期的(月1回)に開かれるリスク委員会の折にフロア会議に出された事例を報告し検証するとともに、ミニカンファレンス時に職員全員で話し合い 身体拘束をしないケアの実践に向けた取り組みに努力されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員採用時研修で実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員採用時研修で実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお聞きしたり、地域密着運営推進会議にて、入居者、ご家族の意見・要望をうかがっている。	「お客様の声」投函箱を窓口へ設置や面会時、運営推進会議参加時等ホームへ訪問時に意見や要望が気軽に伝えていただけるよう配慮されている。出された意見はホームの運営やケアに活かされている。なお年度内には家族会が開催予定と伺った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会などで職員の意見等を吸い上げ、主任会議に反映させている。	フロア一会議のうちに職員の意見や要望、提案を受けてホームの運営やケアの質の向上に反映されている。職員から出された就業環境に関する事について、現在検討中であることを伺った。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	音楽等職員の持っている個人技能が処遇上活かせるようにしている。 人事考課制度の導入準備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主研修の機会を多く持ち施設として協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて相互の課題解決を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ユニット内をご案内したり、ゆっくりお話をお聞きするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活の様子なども含め、ゆっくりお話をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いに添いながら、支援について考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業や食事などしたり、笑ったり悩んだりしながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時はゆっくり過ごしていただけるよう努めている。また外出や電話など協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人に逢いに出かけるよう、少しずつ支援している。	入居者が以前出掛けていた馴染みの商店街へ一緒に(スーパー等)買い物に行き、馴染みの方々との出会いや会話を楽しまれていることを伺った。併設施設内を散歩される際に馴染みの知人・友人との交流が得られている。	今後更に入居者の生活暦の把握に努められ、入居者をとりまく人や支えてきた方々との関係性が途切れないような支援の取り組みに期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の気が合う、合わないに配慮しながら、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には支援していきたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発言など記録し、思いに添えるよう努めている。	日々の生活記録は書きやすい場所に置かれ、入居者の語った言葉や状況等が記載されており、思い・希望・意向の把握に努められている。	入居者が日頃それとなく発せられる「つぶやき」を書きとめ(つぶやきノート等)、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に繋がることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からお話をお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を記録し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合い、計画を立てている。ご家族にも連絡している。	日頃のケアの中より入居者の思いや意向を聞くとともにご家族の要望を聞き、フロアー会議時に担当職員の意見も含め職員全員で話し合い介護計画を作成されている。	介護計画をチャートに組み入れることにより、よりきめ細かいケアに繋がることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に基づき、口頭でも伝えることで、情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や、本人希望の外出等、できる限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元新田区との「地域福祉推進協定」にて相互協力をしている。ボランティアの受入活用及び推進を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し対応している。かかりつけ医への情報提供を行い、定期的な往診もしていただいている。	入居者、ご家族の希望により全員の方がホーム提携医による2週に1回の訪問診療を受けている。その折には看護職から情報提供が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員へ相談、報告を行い情報を共有し、看護・往診を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に関わりを持ち、協力していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設における看取りケアについては検討中	事業所として入居者の思いの実現に向け検討中であることを伺った。なお複合施設を活用しての看取りケアの体制にあることを伺った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や講習会で訓練しているが、ユニット会などで定期的な訓練をしていきたいと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との防災協定により地域の皆さまに施設の常用を理解していただき、勇次に備えている。	プラムの里消防計画書を作成し年2回の避難訓練が実施されている。(避難誘導訓練年2回[内1回は夜間実施]、通報訓練や消火訓練は随時)地震災害対策についても防災教育及び訓練が行われている。なお地域との防災協定が結ばれており地域との協力体制が構築されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の立場になって、個々に合わせた言葉かけをしている。	接遇研修や職員採用時の研修等により職員の意識向上をはかるとともに、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けの対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる声掛けをして、本人の思いにこたえられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝時間等、その人のペースで生活していただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服など、できるだけ本人に選んで頂けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の好みに合わせた食事を提供し、一緒に準備、食事、片付けをしている。	施設厨房で作られた食事を入居者と一緒に準備(盛り付けや配膳等)して職員と一緒に会話をしながら楽しく食している。時には入居者の希望(おはぎ、草もち、五平餅等)に沿った食事作りが行われていることを伺った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算のできた食事提供をしている。一人ひとりの状態に合わせて、水分摂取をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところは本人に行って頂き、その他はお手伝いさせていただいている。歯科衛生士による口腔ケアも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日の体調に合わせ、できるだけトイレで排泄できるようにしている。使用する排泄用品についても見直しをしている。	職員は排泄記録により入居者の排泄パターンを把握されており、排泄の自立に向けた支援に努力をされている。排泄用品も目につかない場所に保管し、さりげない声掛けなど本人の自尊心に配慮した支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫している。また、排泄記録を取り、トイレ誘導をしたり、看護と協力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望に添って支援していけるよう検討したいと思っている。	週2回の入浴支援が行われており、入浴を楽しむことができるよう様々な季節風呂(菖蒲湯、バラ湯、りんご湯、もみじ湯、ゆず湯等)を用意した入浴支援が行われている。体調等により入浴拒否される入居者には清拭等による支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、空調の管理をし、気持ちの良い寝床作りに心がけている。足浴も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護と連携し、状態の変化や薬の変更時の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業をすることで役に立てている喜びを得られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があった時はできる限り対応するように努めている。ユニットから出て気分転換をしていただけるようにしている。	入居者の希望に沿った外出支援が行われていることを伺った。なお併設施設内を見学したり他のユニットの行事参加などして気分転換やストレスの解消ができるよう支援をされている。	地域密着推進会議参考資料のなかで「外での活動を増やし、積極的に地域と関われる機会をつくる」とあり具体的な支援方法を明記して取り組みに努力されている。その人らしい暮らしの支援(生活の継続としてとらえる外出)の実現に期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している方は1人のみですが、今後支援していきたい、計画中です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかかけたいときに電話できるよう、ご家族とも話し、協力していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度の管理や明るさの調整などしている。季節ごとの花をテーブルや玄関に飾ったり、行事の雰囲気づくりにも配慮している。	共用空間には季節の花や入居者が制作した大きな貼り絵やぬり絵の作品等が飾られ、全体的に殺風景でなくほっと安らぐことが出来るよう家庭的な雰囲気作りに配慮されている。なお馴染み深い量の居場所をつくり安心感が得られるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を置いたり、小上がりで自由に過ごせるようにしている。テーブルの配置にも配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々になじみのあるたんすや寝具を使用したり、写真など飾って、心地よく暮らせるよう努めている。	入居者一人ひとり使い慣れた思い出の品(寝具、タンス、愛用のデスク、テレビ、衣装ケース、写真等)が持ち込まれ、季節外の品、排泄用品などは倉庫に保管され、住み心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはご自分でやっていただけるよう、プライバシーに配慮しながら、居室・トイレの扉を閉め切っていても、さりげなく見守りができるようにしている。		

目標達成計画

作成日: 平成24年3月27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	・介護計画の作成が遅れがち。 ・介護計画を意識したケア。	・現状に即した介護計画の作成。 ・介護計画を確認しやすくする。	・身体や精神状態の変化はこまめに記録し、随時カンファレンスを行う。 ・排泄チェックシートなどの備考欄に介護計画を表示し、確認しやすくする。	6ヶ月
2	23	・その人らしい暮らしの継続。	・一人ひとりの思いや意向の把握。	・ゆっくりお話をお聴きする。 ・入居者のつぶやきなど書きとめる。	12ヶ月
3	20	・馴染みの場所や人との関係の継続。	・馴染みの場所や人に逢いに出かける。また、来て頂く。	・ご家族から、より細かい情報を得られるような関係づくり。 ・入居者の生活暦を把握し、支えとなる方々と連絡をとりあう。	12ヶ月
4	49	・一人ひとりの希望に添った外出。	・地域の方や家族と協力しながら外出できるようにする。	・入居者の思いを把握し、必要に応じてご家族と連絡をとる。 ・ボランティアや地域の方と顔なじみになれるよう努力する。	12ヶ月
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。